

令和元年 7 月 19 日

学校関係者評価委員会報告書

学校法人 札幌青葉学園 北海道歯科衛生士専門学校
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

学校法人 札幌青葉学園 北海道歯科衛生士専門学校 学校関係者評価委員会は、自己評価委員会において作成された平成 30 年度自己評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

記

1. 日 時：令和元年 7 月 7 日（日） 12：00～14：00

2. 場 所：北海道歯科衛生士専門学校 1 F 会議室

3. 学校関係者評価委員（敬称略）

<委員長>

進藤 正信 （天使大学・教授 元北海道大学歯学研究院教授）

<委員>

上野 祐加 （医療法人仁友会 日之出歯科診療所・歯科衛生士 士長）

齋藤 紫穂 （医療法人仁友会 日之出歯科真駒内診療所・歯科衛生士 士長）

山本 佑季子（昼間部 1 期生 同窓会長）

有坂 一男 （医大前歯科診療所・院長）※欠席

4. 事務局

吉田 重光 （北海道歯科衛生士専門学校・校長）

中村 麻希 （北海道歯科衛生士専門学校・昼間部教務主任）

窪田 康花 （北海道歯科衛生士専門学校・夜間部教務主任）

益田 友美 （北海道歯科衛生士専門学校・昼間部教務副主任）

吉田 香 （北海道歯科衛生士専門学校・事務長）

5. 学校からの説明

平成 30 年度自己評価報告書について

6. 学校関係者評価委員による評価結果

項目	評価
<p>基準1 教育理念・目標</p>	<p>○優秀な歯科衛生士を養成する施設としての理念が定められ、臨床実習等の実践的なカリキュラムを組むことで、本校の目標とする即戦力としての人材を育成することが可能となっていることは、高く評価される点である。</p> <p>その一方で、学校の目的とする人材育成の豊作が保護者へ周知されているかという点については、より一層の向上が必要であると思われるので、その意味でも学生便覧やパンフレットへの記載が必要である。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>○理事会を中心とした学園運営方針の策定、これにともなう事業計画の立案、達成度についての報告も行われ、適切に運営されていることが示されている。</p> <p>○事業計画は単年度のものということだが、5年単位毎の中期計画を作ることも考えてはどうか。</p> <p>○ホームページを立ち上げ情報公開も積極的であることは評価できる。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>○新カリキュラムの導入を図り、重複した講義内容の整理・統一により、学生の授業の理解度の向上が図られている。</p> <p>○平成29年度に外部関係者を加えた評価委員会を組織し、より客観的な教育活動評価を行おうとしている点は十分に評価できる。</p> <p>○企業セミナーや外部講師の講義は、国家資格取得後の進路を考える上で、歯科診療所以外にも様々な選択肢がある一つの判断材料になり、学生に良い刺激となるのでとても良い機会である。同窓会にも活かしていけるものだと思う。今後も積極的に取り組んでほしい。</p> <p>○夜間部の教員の確保については、勤務時間帯が夜遅い時間になることから、なかなか厳しいと感じた。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>○教員が非常に熱心に学生に向き合って指導しているのがとてもよく分かった。カリキュラムの中で実習時間・内容がどこよりも充実しているのが北衛の特色・強みであり、臨床実習にて指導する立場としてこれからも協力していきたい。</p> <p>○昼夜ともに国家試験合格率100%を達成したのが素晴らしい。昨年は夜間部の学生が1名残念ながら不合格となってしまったが、不合格者に対する1年間のサポートが非常に手厚いと感じた。</p> <p>国家試験合格率の高さと手厚い指導については、もっと外にアピールしていった方が良いのではないか。</p> <p>○退学者の数が前年度よりも減っている。毎年数名の退学者が出ることは仕方のないことであるが、担任二人制をとり、さらに保護者との連携を密にすることで改善を図っており、今後の成果が期待される。</p> <p>○就職を希望する者の就職率は100%とあるが、卒業して歯科衛生士の資格を取っても、就職を希望しない学生は毎年何人程度いるのか。またその学生への対応はどうしているのか。</p>

	<p>○担任二人制は学生のサポートを充実させる上でとても良いと思うが、教員間での連携が上手くいかないと難しそうだと感じた。</p> <p>○同窓会はまだ立ち上げたばかりなので、これからの活動の充実をはかる。再就職のためのセミナー開催や、ホームページ等のシステム作りに取り組んでいく。</p> <p>また、同窓会には卒業生同士は勿論、在校生との交流も必要になると思われるので、ぜひ学友会との交流・連携の機会を今後検討していきたい。</p>
基準5 学生支援	<p>○保護者との連携に関しては、とても熱心に教員が取り組んでおり、昨年度以上に細やかに行われている。</p> <p>○就職率は100%であり、進路・就職に対する支援体制は充分整備されている。学生相談についても担任二人制などの改善策を設けていることは評価される。一方で経済的な支援体制は充分とは言えず、より一層の充実が望まれる。</p> <p>○卒業生の支援体制については早めの改善が必要である。</p> <p>現状、卒業生は再就職を探す際に、学校求人を見る選択肢を考えていない、知らないと思われる。そのため、同窓会を通じて学校求人の情報を積極的に発信するとともに、在学中からも卒業後の学校求人について周知を徹底していく必要がある。</p>
基準6 教育環境	<p>○防災に対する取り組みが改善されている。後はさらに防災訓練を充実させる等、取り組んでいってもらいたい。</p> <p>○学内の教室・実習室等は十分な環境を維持しているが、経年劣化に対する補修等が必要になることも考えられ、この点に関する備えが必要と思われる。</p>
基準7 学生募集	<p>○夜間部の学生募集については、社会人をターゲットにしているため難しい面も多いと思われるが、昼間部に関しては、定員の50名を確保できるように、募集活動の成果が出ることを期待している。</p>
基準8 財 務	<p>○ホームページを多様に活用しており、情報公開も適切に行っている。</p>
基準9 法令等の遵守	<p>○昨年度から自己評価を適切に行っている。</p> <p>○個人情報の保護対策に関しては引き続き規程の整備を行ってほしい。</p>
基準10 社会貢献・ 地域貢献	<p>○学生ボランティアについては、昼間部が新カリキュラムになれば時間に余裕ができるとのことなので、今後の改善に期待したい。</p> <p>○社会貢献・地域貢献はすぐには難しいかもしれないが、少しずつ実現してほしい。</p>

以上